

## 〈第 1 章〉 研究概要

### 1 研究主題

#### (1) 研究主題

# 自ら考え、伝え合う力を育む学習指導の工夫 ～ 言語活動の充実を目指して ～

#### (2) 主題設定の理由

##### 学校教育における課題

新しい知識・情報・技術があらゆる活動の基盤となる社会、すなわち「知識基盤社会」はグローバル化がますます進み、日々、絶え間ない変化を繰り返している。

このような社会を担っていく子どもたちに求められているのは、「生きる力」である。それは一人一人の子どもの自己実現の基盤となるだけでなく、社会全体の発展の原動力になるものである。いわゆる OECD の提唱する「主要能力」(キーコンピテンシー)の考え方と同様のものである。

学校教育においては、「生きる力」である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つの要素を調和的に育てることが大切である。

そのための具体的な手立ての視点として、学習指導要領には、次の基本的な考え方が示されている。

- ①「生きる力」の理念の共有
- ②基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ③思考力・判断力・表現力等の育成
- ④確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑤学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑥豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

特に、②、③、⑤については、近年の学力低下が背景となっているところであり、学校現場において、授業改善・指導力向上が大きな課題である。

##### 本研究の経過と方向性

本研究では、問題解決的な学習を基盤としながら、学習指導の在り方を探っている。また、より学習を効果的に進めるための手立てとして、発言のきまりやノート指導等の効果的な学習ルールを取組についても明らかにしていく方向でいる。

これまでの研究では、検証授業を通して、単元構成や学習過程を工夫したり、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるような手立てや支援を工夫したりすることが、学習意欲向上と確かな学力の定着につながることを検証してきた。言語活動を位置づけた単元構成や問題解決的な学習過程の効果は明らかになっていることは確かなことである。

しかしながら、問題解決的な学習を進めていく際の悩みや課題は、

「確かな学力」を育成  
するために

日常実践の中において、まだまだ多く指摘されているところである。

「確かな学力」を育成するためには、各教科で、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれを活用して思考力・判断力・表現力等の力を身につける授業の工夫が必要である。特に、子ども自身が既習の知識・技能を活用して課題を主体的に解決する学習を重視する必要がある。さらに、言語活動や体験活動の充実を図った授業が求められる。

特に言語活動の充実は、各教科等を貫く授業改善の視点である。言語は、知的活動（論理や思考）だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるからである。具体的には、国語科で身につけた基本的な力を定着させた上に、各教科等においても、記録、要約、説明、論述、報告といった学習活動を充実させることが重要である。

単年度に研究に  
あたって

当研修センターでは、平成19年度より3年次計画で、「自ら考える力を育む学習指導の工夫」と研究主題を設定し、研究を進めてきた。「基礎的・基本的な知識や技能を習得及び活用する学習活動」を効果的に盛り込んだ単元構成、そして「自分なりの考え」をもとに「仲間と学び合う場」を意図的に設定した学習過程、さらに、単元を通じた意図的・計画的な評価などについて、検証授業を繰り返す中で、成果をあげることができた。

今年度は単年度研究として、これまでの3年次研究の成果を確かめる1年とした。「問題解決的な学習」「言語活動の充実」をキーワードに、「単元構成」「学習過程」、「より効果的な指導につながる評価」について、様々な角度から検証し、広く発信していくこととした。

## 2 目指す子どもの姿

- 課題や問題に向かって、積極的に考える子ども
- 確かな言語の力を身につけ、豊かに表現する子ども
- 互いの考えを伝え合い、発展させ、学びを深め合う子ども

※実際の授業場面では

- 課題（問題）を見付けることができる、把握することができる。
- 解決の見通し（「こうしたらよい」「こうなるはず」など）をもつことができる。
- 既習を生かし、よりよい解決方法を選択したり、判断したり、考えたり、発見することができる。
- 自分の考えを分かりやすく表し、的確に伝えることができる。
- 解決したことから新たなことに気づくことができる。
- 友だちの考えのよさに気付くことができる。
- さまざまな意見の共通点や相違点を見付けることができる。
- 自分の学びを振り返ることができる。
- 学んだこと（知識・理解、方法、考え方等）を次の学びに生かすことができるなど。いわゆる問題解決的な学習を基盤に見られる子どもの姿。

### 3 研究仮説

- 【仮説1】「なぜだろう」「解決したい」との思いを大切に、問題解決的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価を図ることにより、「学ぶ楽しさ」を味わうとともに、自ら考える力を育むことができる。
- 【仮説2】自ら考えたことを「表し、伝え、高める」活動を意図的に設定した学習過程やその指導のあり方の工夫と1単位時間の評価を図ることにより、「自己解決力」を高めるとともに思考力・判断力・表現力を育むことができる。

### 4 研究の視点

視点1  
「基礎的・基本的な知識および技能を明確にし、確かな習得を図る」とともに、「思考力・判断力・表現力の育成を図る」意図的・計画的な言語活動を位置づけた単元構成と単元の評価の在り方

視点2  
「問題解決学習を基盤とし、「課題意識（問題意識）」や「解決への見通し」を持ち、「自ら考え、伝え合う場」を具体的・効果的に設定した学習過程の工夫と1単位時間の評価の在り方

### 5 研究計画

#### (1) 年次計画

##### 第1年次 研究計画

- 【第1年次】平成22年度（2010年度）「理論研修と実践」
- 前年次の振り返り
  - 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の決定
  - 理論研修と資料収集
  - 所員の検証授業
  - 研修講座「学習指導」の開催、運営
  - 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要No85作成

##### 第2年次 研究計画

- 【第2年次】平成23年度（2011年度）「理論研修と実践」
- 第1年次の振り返り
  - 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の見直し、修正
  - 理論研修と資料収集により、具現化した授業構築
  - 所員の検証授業
  - 研修講座「学習指導」の開催、運営
  - 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要No86作成

##### 第3年次 研究計画

- 【第3年次】平成24年度（2012年度）「理論研修と実践」
- 第2年次の振り返り
  - 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の確立
  - 所員の検証授業
  - 研修講座「学習指導」の開催、運営
  - 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要No87作成

##### 単年度 研究計画

- 【単年度】平成25年度（2013年度）「理論研修と実践」
- これまでの振り返り
  - 所員の検証授業
  - 研修講座「学習指導」「校内研修」の開催、運営
  - 中間報告書の作成、報告会に向けた準備、発表 研究紀要No88作成

(2) 今年度の年間計画

	月 日	曜	主 な 活 動 内 容	
①	5月 7日	火	第1回研究委員会 ・新体制確認 ・目的、研究の方向性の確認	研究の方向性
②	6月11日	火	第2回研究委員会 ・昨年度までの研究の交流 ・検証授業の予定確認	
③	6月25日	火	第3回研究委員会 ・研修講座「校内研修」内容検討 ・検証授業①指導案検討	
④	7月12日	金	第4回研究委員会 ・研修講座「校内研修」講座運営、参加 ・検証授業①(倶知安町立倶知安中学校)	実践を通じた研究の検証
※	8月 6日	火	・後志教育講演会 運営、参加	
⑤	8月28日	水	第5回研究委員会 ・研修講座「学習指導」内容検討 ・検証授業②指導案検討	
⑥	9月17日 18日	火 水	第6回研究委員会 ・研修講座「学習指導」講座運営、参加 ・検証授業②(余市町立黒川小学校)	
⑦	9月24日	火	第7回研究委員会 ・検証授業②の成果と課題	
⑧	10月30日	水	第8回研究委員会 ・検証授業③(寿都町立潮路小学校)	
⑨	11月25日	月	第9回研究委員会 ・検証授業④(岩内町立岩内第一中学校)	研究の総括
⑩	12月10日	火	第10回研究委員会 ・報告会に向けた内容検討	
⑪	1月 8日	水	第11回研究委員会 ・報告会に向けた準備	
⑫	1月 9日	木	第12回研究委員会 ・報告会運営、参加、研究の報告	
⑬	1月21日	火	第13回研究委員会 ・紀要作成に向けた検討 ・今年度の研究の総括	

## 6 研究構造図

